

# 船橋市中法伝貝塚・西之広遺跡

— 都市計画道路西浦藤原町線事業埋蔵文化財調査報告書 —

平成 27年 2月

千葉県教育委員会



ふな はし し なか ほう でん かい づか にし の ひろ い せき

# 船橋市中法伝貝塚・西之広遺跡

— 都市計画道路西浦藤原町線事業埋蔵文化財調査報告書 —





## 序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡などが埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的としたこれまでの業務内容に加え、平成 25 年度から千葉県が行う開発事業にかかる発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について直接実施することとしました。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第 4 集として、都市計画道路西浦藤原町線事業に伴って実施した船橋市中法伝貝塚・西之広遺跡の発掘調査報告書です。西之広遺跡からは、旧石器時代の石器群が出土し、この地域を知るうえで貴重な成果を加えることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する興味を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

平成 27 年 2 月

千葉県教育委員会教育振興部  
文化財課長 永沼 律朗



## 凡　例

- 1 本書は、千葉県県土整備部葛南土木事務所による都市計画道路西浦藤原線事業に係る埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。
  - 中法伝貝塚 船橋市上山町1丁目228-4ほか（遺跡コード204-016）
  - 西之広遺跡 船橋市上山町1丁目208-4ほか（遺跡コード204-017）
- なお、中法伝貝塚は、船橋市教育委員会により第11次調査まで実施されており、今回の調査は第12次調査にあたっている。
- 3 千葉県県土整備部の依頼を受け、発掘調査及び報告書作成に至る整理作業を平成25・26年度に千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は以下のとおりである。

### ○平成25年度【発掘調査】

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長 湯浅京子

発掘調査班長 蜂屋孝之

担当者主任上席文化財主事 山田貴久

実施期間

中法伝貝塚 平成26年1月20日～平成26年1月30日

西之広遺跡 平成25年12月2日～平成26年1月17日

### ○平成26年度【整理作業・報告書刊行】

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長 永沼律朗

発掘調査班長 蜂屋孝之

担当者主任上席文化財主事 田島新

実施期間 平成26年9月1日～11月28日

- 5 本書の執筆・編集は田島新が、編集は落合章雄が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県県土整備部道路整備課、同葛南土木事務所、船橋市教育委員会ほか多くの方々からご指導、ご協力を得た。
- 7 本書で使用した地図の座標値は、世界測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 8 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
  - 第1図 國土地理院発行 1/25,000 数値地図「船橋」
  - 第3・4図 船橋市発行 1/2,500 船橋市年計画基本図「18・24」 平成23年
- 9 図版1に所収した遺跡周辺の航空写真は、京葉測量株式会社による平成17年1月18日撮影の2005C-C18A-11（約1/9,000）を使用した。

## 本文目次

第1章はじめに.....	1
第1節 調査の概要.....	1
1 事業の経緯と経過.....	1
2 調査の方法と経過.....	1
第2節 遺跡の位置と環境.....	1
1 遺跡の位置と地形.....	1
2 周辺の遺跡.....	4
第2章 中法伝貝塚.....	6
1 調査の概要.....	6
第3章 西之広遺跡.....	6
1 調査の概要.....	6
2 検出した遺構と遺物.....	6
第4章まとめ.....	13
報告書抄録.....	卷末

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図 (S=1/25,000) .....	2	第5図 遺構平面図（器種別分布）.....	9
第2図 迅速測図 (S=1/25,000) .....	3	第6図 遺構平面図（石材別分布）.....	10
第3図 遺跡周辺地形図 (S=1/5,000).....	5	第7図 出土遺物実測図（1）.....	11
第4図 グリッド配置及び調査区.....	7	第8図 出土遺物実測図（2）.....	12

## 表 目 次

第1表 出土遺物属性表.....	8	第2表 出土遺物組成表.....	10
------------------	---	------------------	----

## 図版目次

図版1 遺跡周辺空中写真 (S=約1/9,000)	図版3 出土遺物
図版2 調査状況	

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 事業の経緯と経過

船橋市は、千葉市に次ぐ本県第二の都市であり、国県道が数多く集中していることから慢性的な交通渋滞が発生している地点が多くある。そのような地点の一つである船橋市北西部の上山町地区において、交通混雑の解消と歩行者の安全等を図るため、都市計画道路西浦藤原町線の建設計画が立てられた。この建設計画にあたって、平成22年9月に千葉県葛南地域整備センター所長より事業地内における「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では、現地踏査等の結果を踏まえ、平成22年10月に事業計画地内に2か所の遺跡が所在する旨の回答を行った。この回答を受けて、その取扱いについて関係機関による協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、千葉県教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

今回の発掘調査区域には中法伝貝塚及び西之広遺跡の2遺跡が所在しており、調査の経緯・方法及びその内容については以後の各章で詳述する。なお、整理作業については平成26年9月1日から11月28日まで行った。

### 2 調査の方法と経過

発掘調査は、縄文時代以降を対象とした上層の確認調査から着手した。上層については幅2m×長さ7m及び8mのトレンチを主体として、適宜6m~13mの長さのトレンチを設定しながら、表土等を重機で除去した後、遺物・遺構の検出に努めた。

旧石器時代を対象とした下層の確認調査については、上層の確認調査と半ば並行して、上層の確認調査トレンチの一角を利用して2m×2mのグリッドを設定し、遺物の発見に努めた。

記録作成は、地形測量図、トレンチ・遺構平面図、遺構断面図等のすべてについて平板測量及び手実測の従来方法により行った。写真撮影は、デジタルカメラ（JPEGデータ）とともに、6×7モノクロ、35mmカラーリバーサルフィルムカメラにより実施した。

整理作業は調査図面・写真的記録類の整理から実施した。現場図面の鉛筆トレース・修正を行い、写真図版候補写真を選出し、仮レイアウトを行った。その挿図・写真図版原図をもとに、デジタル編集によるトレースや写真補正等を行って挿図・写真図版を作成した。その後、原稿執筆・編集・校正作業を経て、整理作業を終了し、報告書刊行に至った。また、報告書の編集中に報告書に基づいた収納整理作業も併せて実施した。

## 第2節 遺跡の位置と環境（第1~2図、図版1）

### 1 遺跡の位置と地形

中法伝貝塚及び西之広遺跡は、東京湾に注ぐ海老川水系の長津川と、同じく東京湾に注ぐ真間川水系の大柏川の支流により開析された標高23m~24mの台地上に位置しており、両水系の分水嶺にあたる部分に所在する。今回調査の対象となった2遺跡は、6遺跡からなる上山台遺跡群の西側に位置している。船

- 
1. 中法伝貝塚
  2. 西之広遺跡
  3. 前貝塚
  4. 宮前遺跡
  5. 坂ノ上遺跡
  6. 藤原觀音堂遺跡
  7. 前貝塚堀込貝塚
  8. 飛ノ台貝塚
  9. 古作貝塚
  10. 藤原北貝塚
  11. 法伝西遺跡

第1図 遺跡位置図 (S=1/25,000)



第2図 迅速測図 (S=1/25,000)

橋市の中心を流れる海老川は、東京湾から北に向かう樹枝状の開析が進んだ水系で、その源を金杉・馬込付近に発し、飯山満川や前原川・長津川などと合流、約6,000年前の有楽町海進・海退を経て船橋市海神あたりに発達した砂州を開析して直接東京湾に注いでいる。かつては豊富な水量があったと言われる海老川であるが、現在、市街地ではほとんどの部分が暗渠となっている。船橋市海神あたりに発達した砂州は、市川市の海岸線に発達した市川砂州とほぼ同時期に発達したもので、海老川水系の河口付近は、しだいに入り江状となって干潟が発達し、貝などの食糧資源を豊富に提供する環境となっていたようである。中法伝貝塚及び西之広遺跡の両遺跡が位置する北西側には、市川市域から延びる大柏川水系の樹枝状の開析が入り込んでおり、市川砂州周辺においても同様に貝などの食糧資源の豊富な干潟の環境が整っていったと考えられ、縄文時代中期以降の貝塚形成に深く関わっていたのではないかと推測される。

## 2 周辺の遺跡

旧石器時代では、立川ローム層のソフトローム層のブロックから4点のナイフ形石器などが出土した藤原台遺跡群内の下郷後遺跡、立川ローム層のVI層からIXc層にかけて剥片などが出土したブロックやⅢ層からVI層にかけてナイフ形石器や剥片が出土したブロックを検出した古作中台遺跡、立川ローム層のIV層下部の石器群などが出土したブロックが集中して検出された向遺跡などがある。

縄文時代では、船橋市教育委員会による中法伝貝塚の調査が、平成25年度までに第11次調査まで実施されており、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑などからなる集落跡が確認されている。また、中法伝貝塚の北側に位置する藤原觀音堂貝塚では、縄文時代中期から後期の集落跡が検出され、埋葬人骨などが出土している。さらに、中法伝貝塚の東側に位置する宮前遺跡では、縄文時代中期の竪穴住居跡などが検出され、上山台遺跡群内の各遺跡に縄文時代の集落跡が点在していることが明らかになってきており、大規模な貝塚の形成はないものの、南北に入り込む水系を利用して積極的な海産物資源の利用が行われていたものと推測される。上山台遺跡群周辺を概観すると、北側には法伝遺跡、法伝西遺跡、藤原台遺跡、南側には、前貝塚堀込貝塚や辺田台貝塚、市川市側には姥山貝塚、今鳥田東遺跡、今鳥田遺跡など多くの貝塚を伴う遺跡が点在している。

## 参考文献

- 船橋市教育員会 1983年『下郷後』
- 船橋市教育委員会 1994年『平成5年度市内遺跡発掘調査報告書』
- (財)千葉県文化財センター 1995年『船橋市古作中台遺跡—東京税関古作寮建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—』
- (財)船橋市文化・スポーツ公社 2001年『向遺跡』
- 船橋市教育委員会 2004年『平成15年度市内遺跡発掘調査報告書』
- 船橋市教育委員会 2010年『平成22年度市内遺跡発掘調査報告書』
- 船橋市教育委員会 2011年『平成23年度市内遺跡発掘調査報告書』



## 第2章 中法伝貝塚

### 1 調査の概要

中法伝貝塚の発掘調査は、平成26年1月20日に開始し、1月30日まで調査対象3,496m<sup>2</sup>に対して356m<sup>2</sup>の上層確認調査、40m<sup>2</sup>の下層確認調査を行った。その結果、遺構・遺物ともに検出されなかったため、確認調査で終了した。

今回の中法伝貝塚の調査は、第4図に示したように2地点に分かれている。北側調査地点は、台地の外縁部にあたり、大柏川の支谷の谷頭に位置しており、北に向かう緩斜面となっている。縄文時代以降の上層確認調査では、宅地等の移転が行われたため搅乱が顕著であり、遺構は検出されなかった。遺物は、遺構に伴わない中・近世の陶磁器類がわずかに出土したのみであった。統いて旧石器時代の下層確認調査を実施したが、遺物は出土しなかった。立川ロームは、表層のいわゆる「ソフトローム」に及ぶ搅乱は見られたものの、下総台地に一般的な層序を示していた。南側調査地点は、立川ローム層以下までに及ぶ損壊がほぼ全域で確認されたため、上層はもちろん下層の調査も不要と判断され、確認調査で終了した。出土遺物は皆無であった。

## 第3章 西之広遺跡

### 1 調査の概要

西之広遺跡の発掘調査は、平成25年12月2日に開始し、調査対象1,394m<sup>2</sup>に対して136m<sup>2</sup>の上層確認調査、48m<sup>2</sup>の下層確認調査を行った。その結果、1か所のグリッドから旧石器時代の石器が出土したため、100m<sup>2</sup>の本調査を実施し、平成26年1月17日に現場作業を終了した。

西之広遺跡の上層の調査は、畑の耕作のほか宅地造成による掘削が表土層以下の深くまで及び、遺構・遺物ともに検出されなかったことから、確認調査で終了した。下層の確認調査では、立川ローム層の上表面まで掘削が及んでいる部分もあったが、下総台地で確認される一般的な立川ロームの堆積状況が認められた。

### 2 検出した遺構と遺物

調査区内に設置した6トレンチ内の下層確認グリッドの立川ロームⅦ層から、旧石器時代の石器が2点出土した。周辺を拡張したところさらに石器が出土したため、本調査を行い、合計15点の石器が出土するブロック1か所を検出した。立川ロームの層序区分は、財団法人千葉県文化財センター（現公益財団法人千葉県教育振興財團）による区分に準じて行った。

石器は、調査区ほぼ中央の19H-88・99、19I-80、20H-08・09・18・19・28、20I-00・11グリッドに位置する。ブロックの規模と形状は、直径8mの範囲に15点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅦ層・Ⅷ層～Ⅸa層で、50cmほどの高低差をもって包含されている。



第4図 グリッド配置及び調査区

第1表 出土遺物属性表

母岩 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	備考
第7箇	1 19H1-88-0001	ナイフ形石器	チャート	1 31.60	16.10	5.70	3.38	
	2 20H1-09-0001	剝片	珪質頁岩	1 41.90	32.20	11.30	7.22	
	3 a 20H1-08-0001	剝片	ホルンフェルス	1 28.70	21.10	9.20	3.88	
	3 a 20H1-28-0001	剝片	ホルンフェルス	1 37.90	31.20	10.70	8.59	
	3 b 20H1-16-0001	剝片	ホルンフェルス	1 30.00	27.10	12.30	8.92	
	4 20H1-18-0003	剝片	ホルンフェルス	2 44.90	37.90	13.30	30.12	
	5 20H1-06-0002	剝片	ホルンフェルス	3 26.90	32.20	11.50	9.83	
第8箇	6 20H1-19-0003	剝片	安山岩	1 35.50	30.10	9.00	6.84	黒色ガラス質
	7 20H1-00-0001	剝片	珪質頁岩	1 42.00	48.10	20.00	19.12	
	8 19H1-99-0001	剝片	珪質頁岩	2 37.30	51.10	14.20	22.54	
	9 19H1-80-0001	剝片	チャート	2 13.90	25.10	6.00	2.02	玉髓の可能性あり
	10 20H1-04-0001	石核	珪質頁岩	3 42.80	56.20	48.30	115.32	
	20H1-18-0002	砂片	ホルンフェルス	1 11.00	9.80	2.30	0.30	
	20H1-19-0002	剝片	玉髓	1 18.60	21.90	8.40	3.77	縞の可能性あり
	20H1-11-0001	縞	砂岩	1 45.50	21.40	7.60	12.12	

プロックは、ナイフ形石器1点、剝片11点（10個体）、碎片1点、石核1点の合計14点（13個体）と縞1点で構成される。石器石材は、安山岩1点、チャート2点、珪質頁岩3点、黒色頁岩1点、玉髓1点、ホルンフェルス6点（5個体）で、縞石材は砂岩1点である。本プロックでは、石器・縞について12母岩を識別した。内訳は、安山岩1母岩、チャート2母岩、珪質頁岩3母岩、黒色頁岩1母岩、玉髓1母岩、ホルンフェルス3母岩、砂岩1母岩である。

1は玉髓の可能性もあるチャートによる不定形な剝片を素材としたナイフ形石器としたが、あるいは二次加工のある剝片の可能性もある。打面側を先端部にし、左側縁の中央部に細かい調整、右側縁の上部に比較的大きな調整加工を施している。あるいは左側縁の細かい剥離痕は使用痕かもしれない。

2は珪化度の高いわゆるチョコレート頁岩によるやや厚みのある石刃状の綫長剝片である。

3は3aと3bの接合資料である。3aは緻密でやや泥岩質のホルンフェルスによる不定形な剝片で、2点が接合して1個体となる。自然面を大きく残している。3bは背面に90度の打面転移の剥離痕がみられる不定形な剝片である。

4は3に比べより緻密なホルンフェルスによる不定形な剝片である。打面転移を頻繁に繰り返したと考えられる痕跡がみられるが、あるいは打面再生剝片かもしれない。

5は黄粉状の斑紋が多くみられる3・4に比べより砂質なホルンフェルスによる不定形な剝片である。自然面を残している。

6は黒色緻密ガラス質な安山岩による不定形な剝片である。左上半部と右側縁が大きく欠損している。

7は黒色頁岩による不定形な剝片で、背面と側面に90度の打面転移の痕跡がみられる。

8は一見、いわゆる嶺岡産の頁岩に類似した珪質頁岩による不定形な剝片である。背面に90度の打面転移の痕跡がみられる。

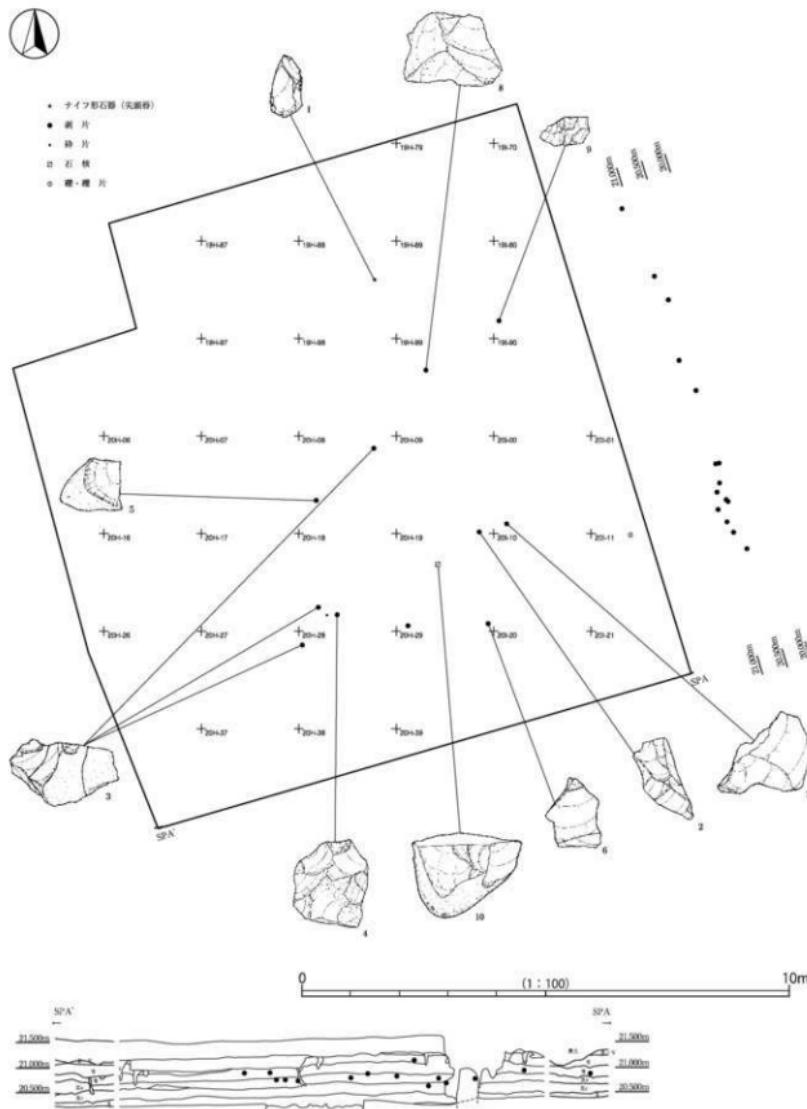
9は比較的透明度の高い玉髓の可能性もあるチャートによる不定形な剝片である。背面に打面転移を頻繁に繰り返した痕跡がみられる。

10は比較的珪化度の高い珪質頁岩による石核である。比較的大きな縞を分割し、分割面を打面として、小型で不定形な剝片を剥離している。末端には台石上での剥離を想定させる爪で搔いたような痕跡がみられる。

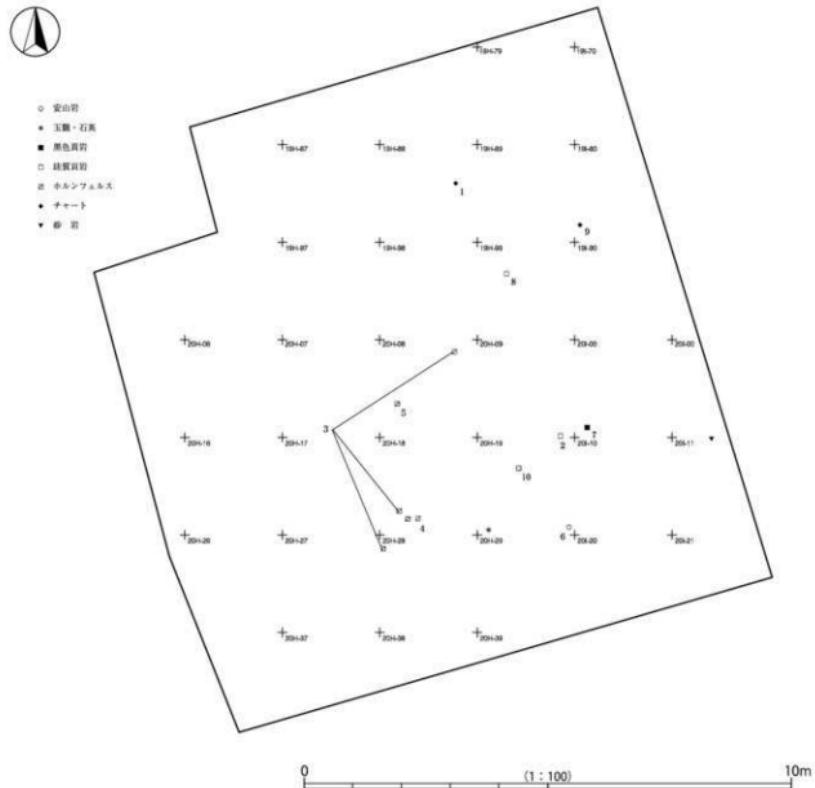
#### 参考文献

島立 桂・新田浩三・渡辺修一 1992年「下総における立川ローム層の層序区分」『研究連絡誌』第35号

財団法人千葉県文化財センター



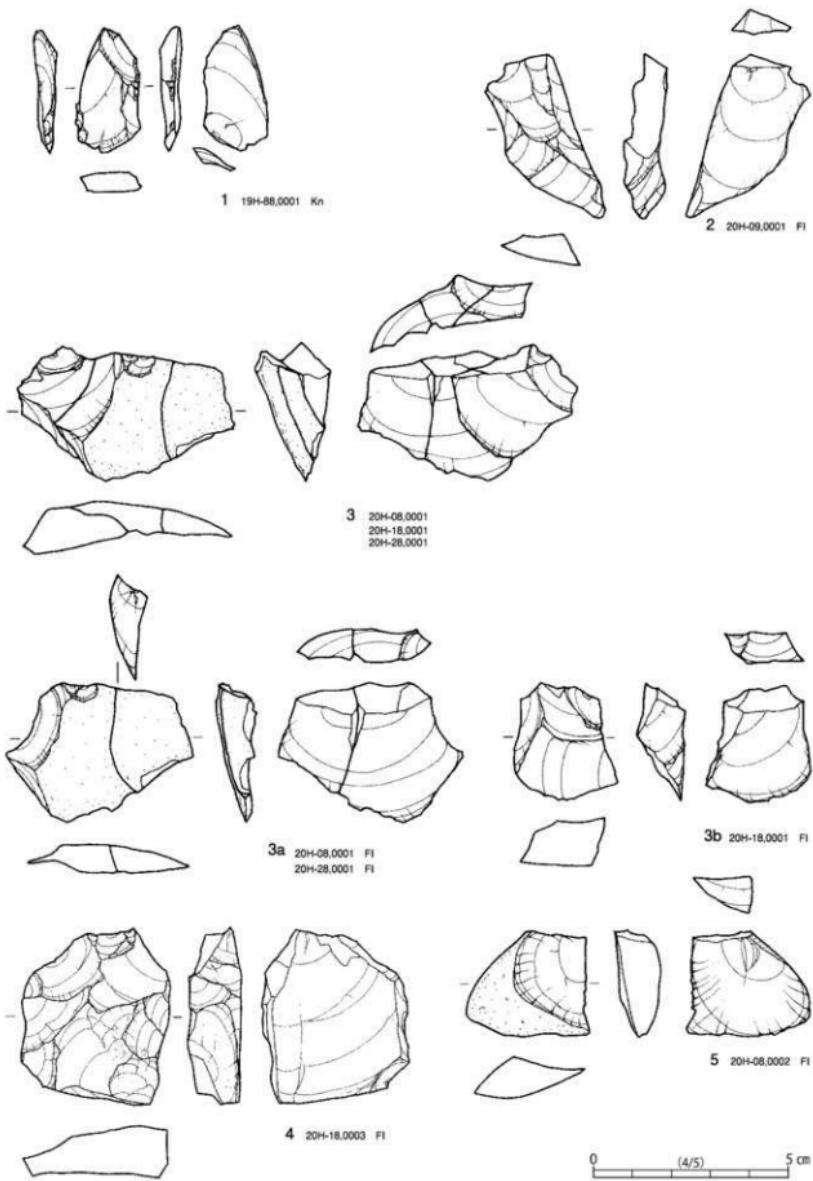
第5図 遺構平面図（器種別分布）



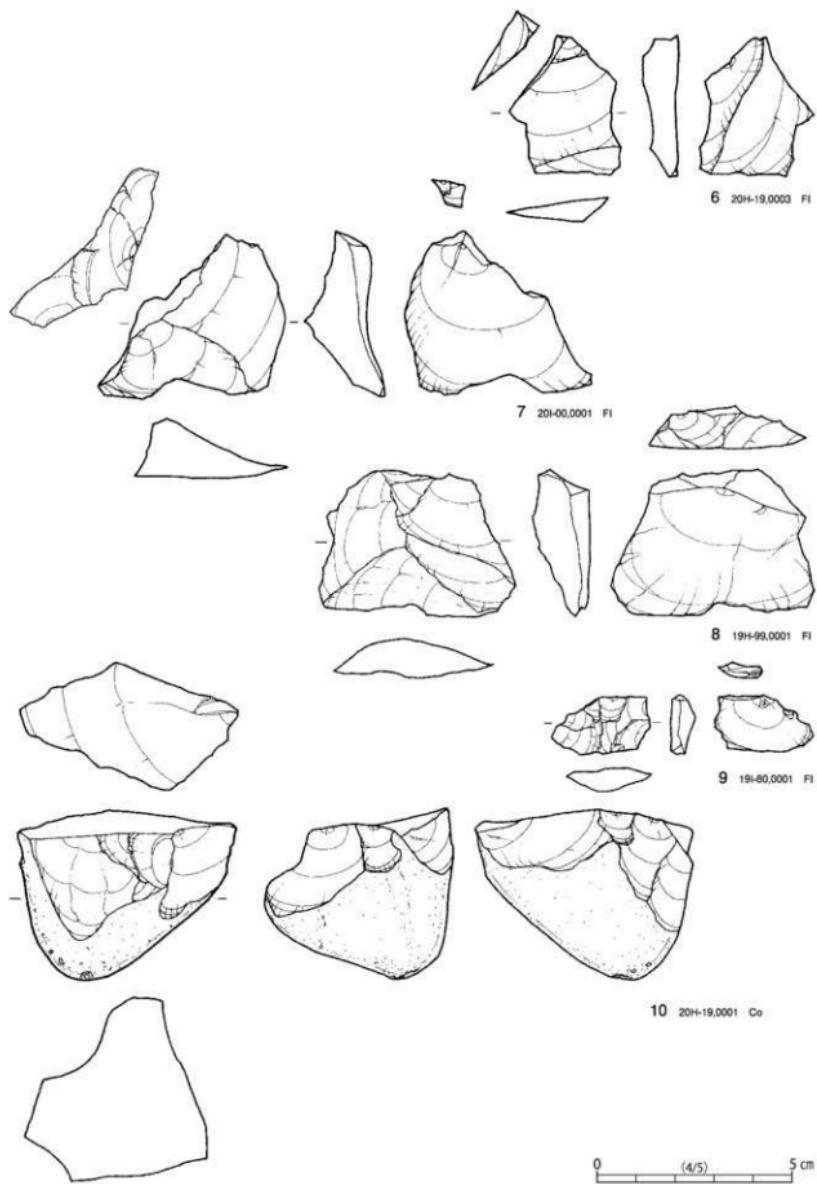
第6図 遺構平面図（石材別分布）

第2表 出土遺物組成表

母岩 番号	器種	母岩 番号	ナイフ 形石器	調片	碎片	石核	種	点数 合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
宝山岩	1			1				1	6.67	6.84	3.04
チャート	1	1						1	6.67	3.38	1.50
	2			1				1	6.67	2.02	0.90
チャート点数合計			1	1				2	13.33	5.40	2.40
珪質頁岩	1			1				1	6.67	7.22	3.21
	2			1				1	6.67	22.54	10.02
	3					1		1	6.67	115.32	51.24
珪質頁岩点数合計			2	1		1		3	20.00	137.96	61.25
黒色頁岩	1			1				1	6.67	19.12	8.50
玉髓	1			1				1	6.67	3.77	1.68
砂岩	1					1		1	6.67	12.12	5.39
ホルンフェルス	1		3	1				4	26.67	21.69	9.64
	2		1					1	6.67	30.12	13.38
	3		1					1	6.67	9.83	4.37
ホルンフェルス点数合計			5					6	40.00	39.95	17.75
全体点数合計			11	11	1	1	1	15	100.00	225.06	100.00



第7図 出土遺物実測図（1）



第8図 出土遺物実測図（2）

## 第4章 まとめ

今回、発掘調査を実施した中法伝貝塚及び西之広遺跡の両遺跡は、上山台遺跡群を構成する6遺跡のうちの2遺跡である。本遺跡群には、藤原觀音堂貝塚、坂ノ上遺跡、宮前遺跡、前貝塚の4遺跡が隣接し、いずれも個人住宅などの民間開発に伴う小規模な発掘調査が実施されているだけで、遺跡の主要な時代を充分明らかにするまでには至っていない。

中法伝貝塚は、船橋市教育委員会による第11次調査までが実施されており、今回の調査が第12次調査にあたっている。これまでの主要な成果を挙げると、第6次調査で、縄文時代中期の土坑や遺物が確認され、第7次調査で古墳時代後期の竪穴住居跡1軒が確認されている。第8次調査では縄文時代中期加曾利E式後半の竪穴住居跡が1軒、第10次調査では縄文時代中期の竪穴住居跡2軒、土坑23基、第11次調査では、縄文時代中期の土坑58基が確認されている。以上のような調査成果から、中法伝貝塚の主体は、縄文時代中期加曾利E式を主体とする集落遺跡であり、隣接する遺跡をまたいで古墳時代後期集落が存在する可能性が高いと考えられる。今回の調査地点は、宅地の移転などにより損壊が顕著であったことを考慮しても、縄文時代中期の遺物が発見されていないことなどから、中法伝貝塚の外縁部に当たっているものと推測される。また、遺跡の概要がほとんどわかっていない西之広遺跡においても、今回の調査成果から縄文時代以降については、遺跡の外縁部にあたっている可能性が高い。

上山台遺跡群は、市川市を流れる大柏川水系及び船橋市内を流れる海老川水系の分水嶺に位置しており、縄文時代中期の集落では、両水系を利用して海産物を獲得し、貝塚を形成したものと推測される。同遺跡群内の藤原觀音堂貝塚においては、平成5・6年の2か年にわたる調査が行われ、縄文時代中期後業から後期前業の竪穴住居跡32軒、土坑184基などが検出されたほか、埋葬された人や犬が出土している。藤原觀音堂貝塚は、大柏川水系の谷頭に面しており、この水系が主たる活動の場であったかもしれない。一方、同遺跡群内の前貝塚は、平成5年に確認調査が行われており、縄文時代中期加曾利E式期の竪穴住居跡8軒などが検出されている。前貝塚は海老川水系の谷頭にあたっており、この水系が主たる活動の場であった可能性が高い。このことは、中期から後期にかけての水系の海産資源の変化を反映している可能性もあり、詳しい検討が必要である。既調査についての成果報告と今後の発掘調査に期待したい。

### 参考文献

- 船橋市教育委員会 1994年『平成5年度 船橋市市内遺跡発掘調査報告書』
- 船橋市教育委員会 2004年『平成15年度 船橋市内遺跡発掘調査報告書』
- 千葉県教育庁教育振興部文化財課 2006年『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 平成16年度』
- 千葉県教育庁教育振興部文化財課 2008年『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 平成18年度』
- 千葉県教育庁教育振興部文化財課 2009年『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 平成19年度』
- 船橋市教育委員会 2010年『平成22年度 船橋市内遺跡発掘調査報告書』
- 船橋市教育委員会 2011年『平成23年度 船橋市内遺跡発掘調査報告書』



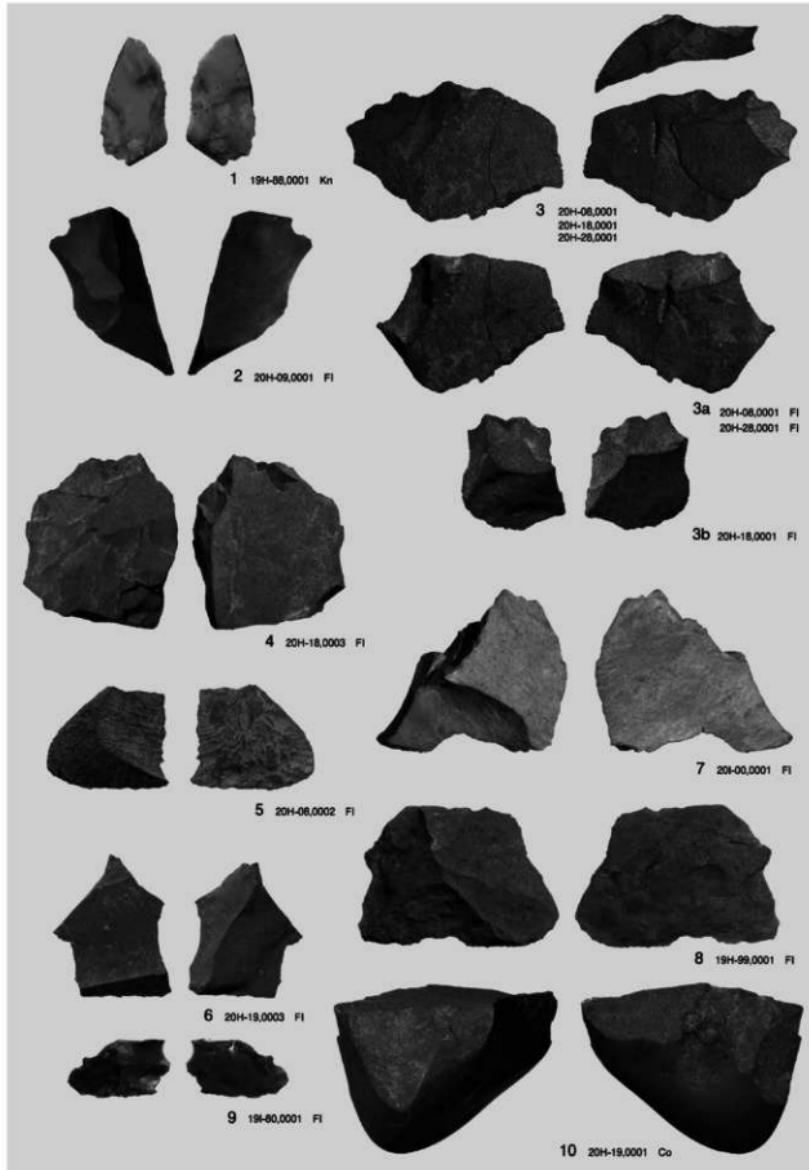
写 真 図 版





道新高速空中中等高 (S=約1/9,000)





出土遺物



報告書抄録



千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第4集

船橋市中法伝貝塚・西之広遺跡

—都市計画道路西浦藤原町線事業埋蔵文化財調査報告書—

---

平成27年2月13日発行

編集・発行

千葉県教育委員会

千葉市中央区市場町1-1

印 刷

三陽メディア株式会社

千葉市中央区浜野町1397

---

